

令和4年4月1日

令和4年度 港区立芝小学校学校経営計画

～地域の中の学校・芝小学校の教育活動 保護者・地域とともに～

港区立芝小学校
校長 川原 哲郎

I 学校教育目標

地域の方々に愛される学校、保護者が子どもたちを「通わせてよかった」と思える学校、教職員が教育活動に携わることによってやりがいを感じられる学校、そして子どもたちが「学校に来てうれしい、明日も楽しみ」と思える学校を目指し、多様で変化の激しい時代を生き抜くために知・徳・体をバランスよく培っていくことを踏まえ、以下の教育目標を定める。

○やさしい子(豊かな人間性)

自分のよさを肯定的に認めて自信をもつとともに、友達のよさや痛み、喜びを認めながら互いを尊重し、進んでかかわろうとする子を育てる。特に「いじめは絶対に許さない」ことを中核に据える。

○よく考える子(確かな学力)

知識や技能を確実に習得するとともに、友達とかかわりながら問題を見出し、これを解決する活動を通して思考力や判断力、表現力を身に付け、自ら概念を獲得したりこれからの自分のありようについての考えを広げたり深めたりすることができる子を育てる。

○げんきな子(健康・体力)

自分の健康や成長に関心を持ち、自ら体力の向上や健康の保持・増進に努めて生き生きと活動できる子を育てる。

II 経営方針

1 目指す学校像

○地域の方々に愛される学校

・地域の中の学校として、地域人材の活用、地域の教材化など、積極的に地域を活用する。

○保護者が「通わせてよかった」と思える学校

- ・一人ひとりの児童を大切にした教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。
- ・保護者との連携を密にし、保護者の期待に応える。

○教職員がやりがいを感じられる学校

- ・教師一人ひとりが、個の力を発揮でき、達成感を味わうことができる。
- ・教職員一人ひとりが学校経営に参画し、組織的な取組を行っていく。

○子どもたちが、「学校にきてうれしい、明日も楽しみ」と思える学校

- ・「学習して楽しい」「考えることが楽しい」「友達といることが楽しい」と実感できる。
- ・「自分は変わった」「もっと成長したい」と考えられるようになる。

2 目指す児童像

- 思いやりのある豊かな心を持ち、自他を大切にする子
- 知的好奇心を持ち、すすんで学び、粘り強く取り組む子
- 健康な心と体を持ち、生き生きと活動する子

3 目指す教師像

- 人権尊重の精神を基調に、体罰・いじめ・差別のない学校づくりに努める教師
- 研究と修養に努め、子どもの可能性を伸ばすプロ意識のある教師
- 組織の一員として、協働体制で職務に当たる教師
- 教育公務員としての自覚と誇りを持ち、サービスの厳正に努める教師

4 学校経営理念(基本的な考え方)

【判断基準】子どもたちのために 【方策】組織で、保護者・地域の方とともに
迅速・正確・丁寧・誠実・挑戦・感謝

(1) 経営理念

本年度、本校は144周年を迎える。その歴史と伝統によって培われてきた建学の精神と校風を継承するとともに、社会や時代の変化に対応できる新しい学校づくりに努めていく。

教育内容のより一層の充実に努め、児童の可能性を最大限に伸ばす教育活動を展開し、児童・保護者・地域の期待に応える。

(2) 基本理念に基づく学校経営の基本方針

① 生命尊重、人権尊重の教育の推進

- ・全教育活動を通じて生命の大切さを教え、共に生き共に学ぶ心の教育を推進する。
- ・全教育活動を通じて、児童相互・児童と教師の心の交流を深め、偏見や差別をなくし、不登校やいじめの防止・解決に努める。
- ・児童一人ひとりを大切にした教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。

② 学びの集団の創造と学力向上

- ・授業規律を確立し、全ての児童に、秩序ある学習集団の中での学びを保障する。
- ・基礎基本の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や能力を生かすように努め、児童が互いに高め合う豊かな学びを推進する。
- ・児童の思いや願いを生かした学習を推進し、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実践し、学びの意欲を高める。

③ 学び続ける教師集団、協力・協働を大切にする教師集団の形成

- ・校内研究・研修の推進を図るとともに、自己の課題を明確にした授業改善に取り組み、授業力を高める。
- ・多様な校務を計画的に担当し、学校運営力・学校経営参画意欲を高める。
- ・年間計画に基づく週案を作成・提出し、教育内容の計画・実践・評価・改善に努める。
- ・組織の一員として、協働意識をもって職務を行う。

④ 連携・協力の推進

- ・保幼小の連携・交流、中学校との連携・交流を推進し、小1問題、中1ギャップ等の未然防止に努める。
- ・学校だより、学校HP等を活用した学校からの情報発信に努め、学校公開、学校評価を実施する。
- ・学校周辺の環境や地域人材等を活かした教育活動を行う。
- ・家庭・地域と一体となって児童を育成するという視点に立つとともに、関係諸機関との連携により、課題の未然防止と解決に努める。

Ⅲ 経営目標

学校教育目標を達成するため、「中期経営目標」を設定し、これを達成するために具体的にどのような教育活動等を設定したらよいか考え、「短期経営目標」と具体的な活動を設定する。

その際、学習指導要領に示されている、子どもたちが身に付けるべき資質・能力及び、その実現を目指し授業改善の視点を踏まえて教育活動を行っていく。

＜子どもたちが身に付けるべき資質・能力＞

- ① 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」

＜授業改善の視点＞

- ① 学ぶことに興味や関心をもったり、見通しをもって粘り強く取り組んだりする「主体的な学び」
- ② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えに触れるなどして、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
- ③ 学習を通して得た知識を相互に結び付けて一層深く理解したり、情報を基に自分なりの考えを形成したりする「深い学び」

重点領域 1		授業改善と学力の向上
中期経営目標	規律ある学習集団を築き、基礎基本を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びを追究する。	
短期経営目標	・芝小スタンダードの徹底、モジュール学習等を活用し、授業規律の確立と、基礎基本の定着を図る。 ・自分の考えをもつ時間と交流時間を設け、自己の考えの確立とその深まりを図る。 ・全教科で言語活動を重視し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を追究する。	
＜教育活動＞ ・全学級で、芝小スタンダードの徹底を図り、授業規律を確立する。 ・モジュール学習の時間を活用し、「読み・書き・計算」という基礎的な知識や技能の定着を図る。また、算数少人数指導(3～6年生)で習熟度別、個に応じた指導を実施し、基礎基本の定着を図る。 ・ねらいを明確にした授業を行い、自分の考えをもつための時間、互いの考えを交流するための時間、また、言語活動を計画的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・一人1台のタブレット端末を効果的に活用し、主体的な学び、対話的な学びを推進する。 ・本に親しむ活動(学校図書館の計画的な活用・充実、保護者ボランティアによる読み聞かせ等)を通して、読書活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす。		

・体験的な学習をはじめとする、多様な学習活動を設定し、児童の主体的な学び、課題解決学習に活かす。 ＜校内研究＞ 意欲をもって粘り強く課題に取り組む児童の育成

重点領域 2		豊かな心の育成
中期経営目標	・お互いが気持ちよく生活できる集団のあり方について理解促進を図る。 ・自分で判断し行動できる児童を育成する。 ・自他を認める共生・協調の精神、郷土愛の育成を図る。	
短期経営目標	・友達のよいところを見付け、認め合える集団を育成する。 ・校内の共通理解を図り、時と場にふさわしい行動ができる集団を育成する。 ・他者とのかかわりを通して、思いやりの心や自己有用感、郷土愛を育成する。	
<教育活動> ・あいさつや教室移動、集合したときなど、時と場に応じた適切な行動がとれるようにする。 ・特別の教科道徳の一層の充実を図り、考え・議論する活動を通して、物事を多面的・多角的にとらえ、自分の生き方について考えられるようにする。 ・全学級で、いじめに関する授業を年3回、5、6年で「SOS の出し方」についての授業を年1回実施する。 ・なかよし班活動(異学年交流)を通して、互いを「愛おしむ」気持ちを育てる。 ・4年生以上の有志による「シンフォニックプラス」の地域行事への参加、希望者が出演する「ミニコンサート」を実施する。 ・図画工作科での成果を中心に、年間を通して校内掲示・作品展示を実施し、一人ひとりのよさを発揮する場とする。 ・人権週間に「人権集会」を実施し、各学級で作った標語を発表するなど、学校生活の改善を図りながら人権感覚を養う。 ・地域と連携し、地域人材や地域の環境、施設を生かした学習活動を各学年年1回以上実施する。		

重点領域 3		体力・運動能力の向上、健康の保持・増進
中期経営目標	・心身の健康・安全に興味関心を高める。 ・基礎体力と運動能力を高め、丈夫で耐性のある心身をつくる。 ・自分の健康を自分で管理する能力を高める。	
短期経営目標	・運動する習慣を身に付け、体力を向上させる。 ・健康でいるために必要なことに目を向けられるようにする。	
<教育活動> ・校庭で遊べる日には、「外に出て元気に遊ぶ」指導をする。 ・運動量の確保、運動の楽しさ、喜びを感じられるよう、体育科の授業を充実させる。 ・体育朝会での、チャレンジジャンプ(長縄)に全校で取り組む。 ・マラソンカード、なわとびカードなど、運動を記録し、自身の変容に気付かせる工夫をする。 ・食と健康の関係について理解させるため、給食の献立や「かみかみデー」「おなかすっきりおそうじデー」など献立テーマなどで食育を行う。		

IV 教育目標の達成を保障するための諸条件の整備

教育目標達成のため、以下の諸条件を整えていく。いずれも、地域の方々、PTA の皆様の御理解と御協力をいただくとともに、港区教育委員会とも密に連携を取りながら進めていく。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策
港区の「新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営に関するガイドライン」に沿って、子どもたちの、安心・安全のための取組を徹底していく。(三密の回避、手洗い、咳エチケットの励行、健康観察等)
- (2) 地域学校協働本部の活用
地域学校協働本部は、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための働きをする場である。本校では、PTA の皆様の力も借り、玄関装飾、遠足等校外学習時のボランティア、図書ボランティア等の活動を中心に、教育活動の一層の充実を図っていく。
- (3) 一人ひとりの実態に応じた支援の充実
子どもたち一人ひとりの特性を生かした教育を行うため、複数の目で子どもたちを見て、働きかけを行う。特別支援教室の活用、スクールカウンセラー(2名)や学習支援員を活用し、保護者の方々と連絡を密に取りながら、支援を行っていく。
- (4) カリキュラム・マネジメントの実現
計画的に、複数の教科を一緒に扱ったり、教科等横断的な学習を行ったりすることを通して、子どもたちが学んだことを様々な場面で生かせるようにする。
- (5) GIGA スクール構想に基づいた取組
一人1台のタブレット端末を、プログラミング教育の計画的な実施や授業の中で有効に活用し、情報処理能力の育成を図っていく。
- (6) いじめ防止基本方針
「いじめは決して許さない」ことを念頭に置き、子どもたち一人ひとりが相手の立場や考えを理解しながら良好な関係を築けるようにする。一方で、「いじめはどこでも、だれにでも起きうる」ことを忘れず、保護者と連携を取りながら、未然防止、早期発見に努め、適切に対応する。
- (7) 複数の教員等での対応
本校は、学級担任教員、専科教員、特別支援教室担当教員の他、多くの講師や学習支援員、介助員等が教育活動にかかわっている。また、高学年を中心に担任教員が一部教科を入れ替わって教える「一部教科担任制」を導入している。複数の教員等で子どもたちを見つめ、様々なよさを見出したり一層適切に対応したりしていく。
- (8) アレルギー対応等の一層確実な推進
子どもたちが、おいしく楽しい給食を安全に食べられるように、子どもたちの実態を把握し、保護者の方々に協力をしていただきながら、確実に推進していく。
- (9) 幼・小中一貫教育の推進
三田アカデミー(三田中学校、赤羽小学校・幼稚園、御田小学校、芝小学校)の連携を深め、小1問題、中1ギャップ等の未然防止に努め、「円滑な接続」ができるようにする。
- (10) 教職員の働き方改革
教職員が元気に、笑顔で子どもたちと向き合うことができるよう、校務のシステム化や校務分掌を見直し会議の精選を行うなどして、教職員の働き方改革を推進する。